

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530384

研究課題名(和文) フランス語圏の植民化・脱植民化 - 経済システムの危機と再編 -

研究課題名(英文) The Colonization and the Decolonization of Francophone Economies: Crisis and Reorganization of Economic Systems

研究代表者

高井 哲彦 (TAKAI, TETSUHIKO)

北海道大学・経済学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：80312338

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：フランス語圏経済は、グローバル化と同義に見なされつつある英語圏経済と対照的に、20世紀を通じて危機と再編を続けてきた。なぜフランス語圏ばかりに動乱が続くのか。植民化・脱植民化の中で生産・労働・流通・行政は、アフリカ・アジアの商工会議所や国策会社を事例にすると、動乱による社会経済的な断絶性だけでなく、現代に続く連続性も観察される。本研究ではその構造を分析するとともに、アフリカ経営史研究の国際ネットワークおよび研究拠点の形成も目指した。

研究成果の概要(英文)：Different from "globalized" Anglophone economies, Francophone economies have faced to the crisis and the reorganizations during the twentieth century. Why they have so many incidents? Chambers of commerce and statutory companies in Africa and Asia show us not only socio-economic discontinuities due to the incidents but also continuities which lead us to the current situation. This study analyzes their structures. It also aims to create an international network and a regional center for the African economic history.

研究分野：経済史

キーワード：経済史 経営史 国際研究者交流 アフリカ 国際情報交換 フランス 植民化 脱植民化

### 1. 研究開始当初の背景

(1) フランス植民地研究には、X. Yacono, M. Ferro, J. Marseille, 権上康男、平野千果子など、経済史の研究蓄積が厚かった。しかし、現在は植民化と脱植民化を連続・断絶両面から捉え直す必要がある。なぜなら、独立後の旧植民地では、内戦・政変を経て脱植民化の神話が崩れ、歴史的経路依存性や植民化の費用対効果など、新論点が提起されているからだ。

(2) 植民化・脱植民化研究は、人的・物的にも再編期にある。文書館は、宗主国の国立文書館だけでなく旧植民地の所蔵文書が、独立後数十年がたち転機を迎える。アンタナナリボ商工会議所等の改組に伴い古文書が廃棄される一方、モロッコ国立文書館、カンボジア国立文書館マイクロフィルム分館、上海市档案馆等が増築される。人物面では、植民地時代を知る人物が死去する一方、植民地時代を歴史として再考察する実践家・歴史家・アーキビストが必要になる。

(3) 日本の西洋経済史も、国際学会で共同研究を行ったり、旧植民地出身の留学生を指導したりすることに、西欧と日本の双方の教育研究経験や英仏語での調査力・論争力を活用する余地がある。実際、アフリカ経営史の共同研究を議論するのと並行し、自分の研究室でコンゴ人とマダガスカル人の経済史家の養成を始めた。

### 2. 研究の目的

(1) アフリカや中東の内戦・テロは、とくに仏語圏で頻発するように思われるが、なぜ仏語圏経済はいまも危機に揺さぶられ続けているのか。仏語圏は20世紀前半までは拡大を続けたが、20世紀後半の経済グローバル化では、英語圏に押され縮小傾向に見える。その危機と再編において、政府・企業・市場はいかに関わったのか。本研究では、3者の交差点である商工会議所や国際会社に焦点をあてる。

(2) 本研究は、一次史料に基づく実証主義に立つ。仏語圏の経済史研究は、宗主国の視点と史料に焦点があり、旧植民地の問題意識と史料蓄積は軽視されてきた。しかし、歴史的アイデンティティが未来建設のためにいまももっとも必要とされているのは、危機・再編に揺さぶられている旧植民地である。旧植民地では、宗主国の研究者の立ち入りが長らく困難であり、史料散逸が危ぶまれてもきた。現地で経済史料を発掘し保全する。

(3) 日本とフランスの双方を知る西洋経済史学が国際貢献する可能性として、アフリカ人研究者と積極的に交流し、共同研究を行う。同時に仏語圏アフリカ人留学生を受け入れ、日本の学会と交流しながら博士・修士を育成し、日本発のアフリカ経済史および史料保全の道を作る。

### 3. 研究の方法

(1) 仏語圏植民地の事例として、インドシナ、コンゴ、マダガスカルの3ヶ国を取り上げる。経済システムの危機・再編において、政府・企業・市場の結節点となる経済団体と国策会社に注目し、植民化・脱植民化の連続性・断絶性を考察する。

(2) 政府や事件・政変・戦争を主役にした政治史だけでなく、市場統計データを主役にした経済史や、商工会議所や国策会社の組織改革を主役にした経営史など、複合的・立体的に経済システムを考える。史料さえ許せば、労働、事故、公害等、新しい視点にも着目する。

(3) 1次史料として、インドシナとマダガスカルでは商工会議所の議事録やインタビュー、コンゴでは国策銅山会社のGecamines社の年次報告書を現地で収集する。マダガスカルではクーデター、コンゴでは内戦やエボラ出血熱が続く。安全確保には現地人院生の支援を受けつつ、史料収集や分析手法を指導し、調査結果は国際学会や現地にも還元する。

### 4. 研究成果

(1) 史料面では、未開拓の1次史料を発掘した。コンゴでは、植民期の国策銅山会社のUMHK社が独立後に国有化され、Gecamines社に再編されるが、後者の社内文書館で年次報告書のデジタル複写を得た。労働、事故、公害の資料も得た。マダガスカルについては、アンタナナリボ商工会議所や産業基盤について、マダガスカル国立文書館に加え、フランス海外文書館で史料収集した。インドシナについては、財界重鎮の南ラオス商工会議所会頭の急逝直後に、ラオス・カンボジアの国立文書館で史料保全を行った。その成果を一連の史料論文に結実させると同時に、史料集の複写をマダガスカル国立文書館やマダガスカル・ラオス・カンボジアの商工会議所にも寄贈した。

(2) 組織面では、アフリカ経営史研究の国際ネットワークおよび拠点形成を行った。ヨハネスブルグ大学、パリ社会科学高等研究院、ヨーク大学の経営史家と交流する中で、国際経済史学会長を務め、アフリカ経営史の泰斗であるヨハネスブルグ大学のヴェーフ教授と出会った。同氏を連携研究者として研究室ぐるみの共同研究を1年ずつ成長させ、英国での経営史協会大会、パリでのグローバルヒストリー学会大会、札幌でのアフリカ経営史シンポジウム、京都での国際経済史会議での共同パネルを実現した。その結果、コンゴ人博士1名、マダガスカル人修士2名の経済史家を研究室から育てた。母国に帰国すればおそらく同国初の経済史家である。またアウトリーチとして、日仏経営学会全国大会主催、北大アフリカ研究会立ち上げ、国内外研究会企画を行い、大学予算で海外留学教材も出版した。

(3) 方法面では、宗主国の経済史・経営史と、植民地の帝国主義論や開発経済論等を統合する視点から、旧植民地の経済システムの危

機と再編を比較した。まず地域差である。旧フランス植民地でも、内務省管轄のアルジェリア、外務省管轄のモロッコ・チュニジア、総督府管轄のマダガスカル・インドシナは、宗主国の統治力とブロック経済の求心力が異なる。フランスの地方県となったアルジェリアと異なり、マダガスカル・インドシナは帝国外の貿易比重も高く、世界大戦時には現地化傾向を強めた。インドシナでは、ラオス商工会議所の幹部にベトナム人枠があるなど、民族の優越関係を統治構造に組み込む現象も観察された。

(4)経済システムとして政府・企業・市場を分けてコンゴ銅産業を分析すると、定説とは異なる複雑性が観察された。独立・脱植民化・国有化期も銅生産量やコンゴ人幹部職員数、事故減少率等は連続的に成長した。内戦と市場価格が悪化すると銅生産は底をつくが、労働者雇用は一定期間維持された。和平が成立し市場価格が戻ると銅生産量も急増するが、同時に公害指数も上がった。こうした研究成果は、研究代表者を指導教員、連携研究者を外部審査員とする研究協力者の博士論文に結実し、全員が参加する世界経済史会議の共同パネルでも展開される。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

John Ngoy KALENGA, Development of the Mining Industry in Congo: The Copper Industry in Katanga, 1906-2012, PhD Thesis, Graduate School of Economics and Business Administration, Hokkaido University, 2015, 147, refereed

John Ngoy KALENGA, Production of Nonferrous Metals in the Katanga Region of the Democratic Republic of Congo: 1906-2012, International Journal of Economics & Management Sciences, Vol.3, No.2, 2014, pp.1-7, non-refereed

<http://doi.org/10.4172/2162-6359.1000181>

John Ngoy KALENGA, Mine Safety and Industrial Accidents at the Generales des Carrieres et des Mines in Katanga, Democratic Republic of Congo, Discussion Paper in Economics and Business Administration, Hokkaido University, Series A, 2014-277, 2014, pp.1-13, non-refereed <http://hdl.handle.net/2115/57345>

高井 哲彦、植民地・脱植民化の歴史的基盤 フランス植民地商工会議所アーカイブ、日仏経営学会誌、Vol.31、2014、pp.32-44、査読有

パトリック・フリダソン(高井哲彦・松田紀子訳)、戦後フランスは中間層社会なりえたか?、日仏経営学会誌、Vol.31、2014、pp.1-17、査読有

高井 哲彦、フランス植民地団体史序説 フランス植民地帝国の視角・史料の再検討、政治経済学・経済史学会 2013年度秋期学術大会報告要旨、2013、pp.27-28、査読有

高井 哲彦、植民地・脱植民化のアーカイブ論、アジア政経学会設立 60 周年記念全国大会報告集、Vol.60、2013、pp.44-44、査読有

高井 哲彦、「社史概論」「事例研究：社史編纂」について、企業史協議会ニューズレター、No.149、2014、pp.3-4、査読有

高井 哲彦、植民化・脱植民化のアーカイブ論 - フランス植民地商工会議所における情報と記憶 -、Discussion Paper in Economics and Business Administration, Hokkaido University, Series B, 2013-111, 2013, pp.1-11、査読無

John Ngoy KALENGA and Tetsuhiko TAKAI, Historical Path Dependencies of Congolese Mineral Resources: Learning from failures to stimulate economic growth, Discussion Paper in Economics and Business Administration, Hokkaido University, Series A, 2013-256, 2013, pp.1-18, no-refereed

John Ngoy KALENGA, Economic and Toxicological aspects of copper industry in Katanga, DR Congo, Japanese Journal of Veterinary Research, Refereed, Vol.61, Feb-2013, Supplement, S23-S32, refereed <http://doi.org/10.14943/jjvr.61.suppl.s23>

高井哲彦、中心市街地の衰退が地域を減ぼす、クオリティ、2012年7月号、pp.180-181、査読有

[学会発表](計 22 件)

Tetsuhiko TAKAI, Transformations of Francophone business networks in colonial Africa, The Nature and Diversity of Business in Africa [S10124], XVIIth World Economic History Congress, International Economic History Association - ICC (Kyoto city, Kyoto), August 3-5, 2015

John Ngoy KALENGA, The development of the copper industry in the Katanga Region from the colonial era to the independent Congo, The Nature and Diversity of Business in Africa [S10124], XVIIth World

Economic History Congress, International Economic History Association - ICC (Kyoto, Kyoto), August 3-5, 2015

Grietjie VERHOEF, African Business: Development and Organization [Keynote speech], Winter Symposium on African Business History, Socio-Economic History Society (Hokkaido), Hokkaido University (Sapporo, Hokkaido), February 1st, 2015

John Ngoy KALENGA, Development of the Mining Industry in Congo: Copper Industry in Katanga, 1906-2012, Winter Symposium on African Business History, Socio-Economic History Society (Hokkaido), Hokkaido University (Sapporo, Hokkaido), February 1st, 2015

高井 哲彦, John Ngoy KALENGA, プロジェクトとしてのアフリカ経営史 - 植民期の旧仏植民地経済団体と脱植民期のコンゴ銅産業 - 、北大アフリカ研究会シンポジウム & 日本アフリカ学会第2回北海道支部例会、北海道大学 (北海道札幌市)、2014年11月18日

Tetsuhiko TAKAI, History of Francophone business in Africa and in Asia (Chair of the panel on "The 'global' history of business in Africa"), Fourth European Congress on World and Global History, European Network in Universal and Global History - Ecole Normale Supérieure (Paris, France), September 9, 2014

高井 哲彦, 書評: 長谷川貴彦 『イギリス福祉国家の歴史的源流: 近世・近代転換期の間団体』(東京大学出版会、2014年)、政治経済学・経済史学会北海道部会 & 社会経済史学会北海道部会、北海道大学 (北海道札幌市)、2014年7月19日

高井 哲彦, 書評: 満園勇 『日本型大衆消費社会への胎動 戦前期日本の通信販売と月賦販売』(東京大学出版会、2014年)、社会経済史学会北海道部会、政治経済学・経済史学会北海道部会 & 経営史学会北海道ワークショップ、北海道大学 (北海道札幌市)、2014年3月1日

Tetsuhiko TAKAI, Japanese Economy for Economists in Potchefstroom [招待有], Opportunities for Academic Exchange between North-West University and Hokkaido University in Potchefstroom North West University in Potchefstroom (Potchefstroom, South Africa), February 5, 2014.

Tetsuhiko TAKAI, Japanese Economy for Economists in Mafikeng [招待有],

Opportunities for Academic Exchange between North-West University and Hokkaido University in Mafikeng, North West University in Mafikeng (Mafikeng, South Africa), February 4, 2014

高井 哲彦, John Ngoy KALENGA, プロジェクトとしてのアフリカ経営史 - 植民期の旧仏植民地経済団体と脱植民期のコンゴ銅産業 - [招待有り]、第7回アフリカ研究会、北海道大学 (北海道札幌市)、2013年12月6日

高井 哲彦, フランス植民地経済団体史序説、政治経済学・経済史学会秋季学術大会、下関市立大学(山口県下関市)、2013年10月19日

Tetsuhiko TAKAI, Francophone Business, Business History Society (Hokkaido), Hokkaido University (Sapporo, Hokkaido), September 25, 2013

高井 哲彦, 社会史から組織史へー全体(マクロ)と主体(ミクロ)論争を超えてー [招待有り]、北大史学会大会、北海道大学(北海道札幌市)、2013年7月28日

Tetsuhiko TAKAI, Colonization and decolonization of business archives: a case of chambers of commerce in Algeria, Tunisia, Morocco, Senegal and Madagascar, Association of Business Historians, Lancashire Business School (Preston, UK), June 28, 2013

高井 哲彦, フランス型経済団体の国際化と植民地主義 - 戦前における商工会議所のフランス国外での多元性、日仏経営学会第61回全国大会、中央大学(東京都文京区)、2013年5月11日

Tetsuhiko TAKAI, COOP Sapporo (1965-1997) and the "Distribution Revolution": A Comparative Introduction, Business History Society of Japan (Hokkaido Workshop) & Warsaw School of Economics = Hokkaido University Joint Workshop, Hokkaido University (Sapporo, Hokkaido), March 26, 2013

高井 哲彦, 書評: 長谷川貴彦著 『産業革命』(山川出版社、2012)、政治経済学・経済史学会北海道部会、北海道大学(北海道札幌市)、2013年2月16日

高井 哲彦, エスニックビジネスの西洋経済史、社会経済史学会北海道部会、北海道大学(北海道札幌市)、2012年12月12日

高井 哲彦, フランス型グローバル化の源流 植民地帝国の商工会議所を事例に、日仏経営学会第60回全国大会、京都産業大学(京都府京都市)、2012年11月10日

21 John Ngoy KALENGA, Economic History of Mineral Resources in

Democratic Republic of Congo, The 4<sup>th</sup> Hokkaido University Sustainability Research Poster Contest, Hokkaido University (Sapporo, Hokkaido), October 12, 2012

- 22 John Ngoy KALENGA, The Economics of Mineral Resources in DR Congo, The 4<sup>th</sup> International Toxicology Symposium, University of Zambia (Lusaka, Zambia), September 3, 2012

〔図書〕(計 1 件)

北大留学応援プロジェクト 2015、北海道大学留学体験記 TransJapan Vol.6、北海道大学経済学部高井哲彦研究室 [教材]、2015 年、294p

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

北海道・経済史情報

<https://ehist.wordpress.com/>

[アウトリーチ]

Tetsuhiko TAKAI [Organizer & Chair], Winter Symposium on African Business History, Socio-Economic History Society (Hokkaido), Hokkaido University (Sapporo), February 1st, 2015

Tetsuhiko TAKAI [Organizer & Chair], Prof. Ezra F. Vogel's "American Views on Sino-Japanese Relations", Hokkaido University & Consulate General of the United States (Sapporo), September 20, 2014

Tetsuhiko TAKAI [Co-organizer & Chair], Panel on "The 'global' history of business in Africa", Fourth European Congress on World and Global History, European Network in Universal and Global History - Ecole Normale Supérieure (Paris, France), September 9, 2014

高井 哲彦 [実行委員長]、日仏経営学会第 63 回全国大会、北海道大学(札幌)、2014 年 5 月 10 日

高井 哲彦 [オーガナイザー&司会]、合評会：恒木健太郎『「思想」としての大塚史学 戦後啓蒙と日本現代史』(新泉社、2013 年)、社会経済史学会北海道部会、北海道大学(札幌)、2013 年 9 月 6 日

高井 哲彦、グローバル経済かローカル経済か? - 西洋経済史の視点で地域経済を考える -、北海道大学大学院経済学研究科公開講座「地域経済を考える - 歴史の視点から - 」、北海道大学(札幌)、2012 年 10 月 13 日

高井 哲彦、開発途上国におけるビジネスチャンスについて [招待有]、開発途上国への海外ビジネス展開セミナー、経済産業省北海道経済産業局・国際協力機構(札幌)、2012 年 6 月 21 日

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

高井 哲彦 (TAKAI, Tetsuhiko)

北海道大学・大学院経済学研究科・准教授  
研究者番号：80312338

### (2)研究分担者 なし

### (3)連携研究者

グリーキー・ヴァーフーフ

(Greitjie VERHOEF)

ヨハネスブルグ大学・会計学部・教授

世界経済史学会・会長

北海道大学・大学院経済学研究科・

アフリカ経済史・博士論文外部審査員

(Examiner of doctoral thesis)

### (4)研究協力者

ジョン・ゴイ・カレンガ

(John Ngoy KALENGA)

北海道大学・大学院経済学研究科博士課程

2015 年修了(コンゴ人・文部科学省奨学生)、

高井研究室・コンゴ担当、PhD

ランベロニリナ・ジャリソア・フェチャ

(Rambelonirina Jarisoa Fetra RAVALISON)

北海道大学・大学院経済学研究科修士課程

2016 年修了見込 (文部科学省奨学生)、

高井研究室・マダガスカル担当